

欧州特許庁、パティステリ長官在任中の実績について取りまとめた報告書を公表  
(2010年～2018年)

2018年6月11日  
JETRO ティェツェルトル事務所

欧州特許庁（EPO）は、6月11日、パティステリ長官在任中（2010年～2018年）の実績について取りまとめた報告書を公表した。

EPO のニュースリリースでは、より効率的かつ競争力のある公的機関として、EPO の中核をなす審査業務に注力し、EPO の職員数全体は概ね同数を維持する一方、審査官数を 10% 増加（3,967 人から 4,378 人）させたことや特許付与プロセスの再組織化や IT 投資を通じて、過去 3 年間で、生産性を 36% 向上させたとともに、審査待ち案件数を 27% 減少させ、一方で、特許付与件数も 82% 増加させた、としている。

また、EPO のニュースリリースでは、影響力のあるグローバル・プレイヤーとして、5 大特許庁との共同プロジェクトを推進し、重複作業の削減や特許情報の普及を進めてきた。さらに、様々なパートナー庁と二国間協力を推進し、欧州特許の認証に係る合意を発展させ、世界中のユーザーに対する特許情報の提供を進めてきた、としている。その他、高品質サービスの提供、労働環境の近代化、社会的責任及び透明性の向上等について改善を講じてきたとしている。

なお、パティステリ長官は 6 月末にて退任する予定であり、後任として、António Campinos 氏（現欧州連合知的財産庁（EUIPO）長官、国籍：ポルトガル）が選出されている。

－ EPO のニュースリリース及び本報告書は、以下参照 －  
(ニュースリリース)

[Achievements 2010 to 2018 published: “Modernising the EPO for excellence and sustainability”](#)  
(報告書)

[Modernising the EPO for excellence and sustainability Achievements 2010 to 2018](#)

－ EPO 長官交代に関する欧州知的財産ニュースは、以下参照 －

[欧州特許庁次期長官に António Campinos 氏（現欧州連合知的財産庁長官）を選出（2017 年 10 月 11 日）\(PDF\)](#)

(以上)